

2023年7月5日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

# auじぶん銀行 日本サービス業PMI®

及び、auじぶん銀行 日本複合PMI®

## 6月の事業活動は大幅なペースで成長

### 主な動向

堅調な需要を受けて、事業活動は継続的に増加

受注残、調査史上2番目の速さで増加

購買価格のインフレ、15か月間ぶりの低水準に低下

データ収集期間：2023年6月12～27日

日本のサービス業は、2023年第2四半期末の事業活動が引き続き上昇したことを示した。事業活動の成長率は5月の記録的指数から緩やかになるも、新規事業がさらに増加する中、調査史上高水準で推移。企業らは今回も、新型コロナの制限措置による影響が薄れたことから、サービス業で需要ならびに顧客数が伸びていることを指摘した。受注残が調査史上2番目に速い勢いで上昇していることを報告する企業もあり、需要の回復が生産能力に対する圧力を強めていた。サービス業は、6月も引き続き強いインフレ圧力があつたことを指摘したが、購買価格のインフレ率は2022年3月以来の低水準に低下しており、減少傾向をみせている。

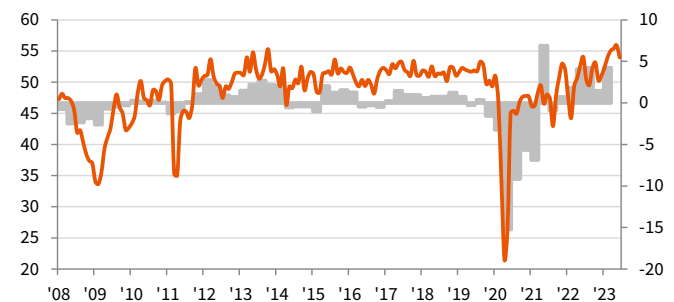
auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバルがサービス業約400社からの調査回答を基にまとめたものである。対象セクターには、消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれる。

主要指標はサービス業事業活動指数で、事業活動量が前月比でどう変化したかを示す。数値が50を超えれば全体として前月比で増加したことを、50を割り込めば減少したことを意味する。

6月のauじぶん銀行日本サービス業事業活動指数は、過去最高を記録した5月の55.9から54.0に低下し、緩やかにはなるもしっかりと成長していることを指摘。また、長期にわたる成長傾向の中でも高い指数だった。

サービス業事業活動指数  
季節調整済み、>50 = 前月比で増加

家計サービス支出  
前年比(%)



出所：auじぶん銀行、S&PグローバルPMI、内閣府(S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス)

新規事業の成長率も前回調査期間の記録的指数から緩やかになったが、これまでで3番目に高い指数を記録した。上昇は調査史上最高値に迫る水準で、国内外の顧客あるいは新規契約の獲得が主な要因に挙げられた。こうした中、新規輸出受注は10か月連続で上昇し、全体的に緩やかなペースだった。

事業活動と新規事業の継続的増加は、日本のサービス業の生産能力への圧力増加を示唆しており、生産能力圧力は、5月の記録的指数からわずかに緩和したにとどまっている。一方で、雇用者数は再び増加を記録しており、企業の実態をみる限り、追加採用の必要性が要因であった。

第2四半期末、平均間接費の上昇率は強い伸びを示した。インフレ率は減少傾向が続いているものの、購買価格の上昇は今回で31か月連続に及ぶ。上昇率は15か月間の最低水準だったが、人件費と原材料費の高騰を要因とするところが大きい。サービス単価が14か月連続で上昇していることから、コストの増加が顧客に一部転嫁されていたと分かる。

今後一年にわたる事業活動の強気の見通しは、6月も堅調だった。3か月間の最低水準に低下したにもかかわらず、調査史上平均値よりも高い景況感を維持した。企業らは、需要が継続的に回復し、新型コロナの制限措置の影響緩和がさらに進むことで、国内外の特に旅行・観光産業で需要が増加すると期待を寄せていた。

## auじぶん銀行 日本複合PMI®

## 6月の民間企業の事業活動成長は、4か月ぶりの低水準

6月のauじぶん銀行日本複合PMI生産高指数\*は52.1を記録。5月の54.3から低下し、民間企業の生産高の緩やかな増加を示した。上昇は小幅で、4か月間で最も低水準だった。製造業の生産高は直近12か月間で11か月目となる縮小を記録したことから、増加は主に、サービス業の事業活動の緩やかな成長が牽引した。

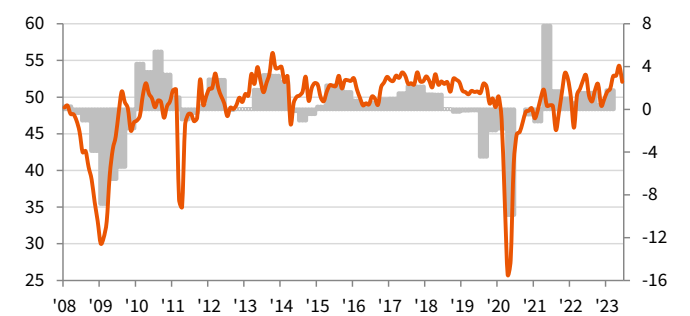
6月の複合新規受注数は、5か月連続に及ぶ成長を記録。調査史上最大に迫る勢いで増加したサービス業の新規事業が、製造業の受注数縮小を相殺する形となった。また、サービス業の受注残は調査史上2番目の速さで上昇したため、民間企業の受注残は緩やかなペースで上昇した。

そうした中、民間企業らは、購買価格のインフレ率が緩やかになり、2021年8月以来の低水準に低下したことを報告。商品・サービスの販売価格上昇率は過去15か月間で最も低水準だった。

サービス業の継続的な回復と製造業の緩やかな回復に期待が寄せられる中、今後1年にわたる見通しは6月、堅調に推移した。

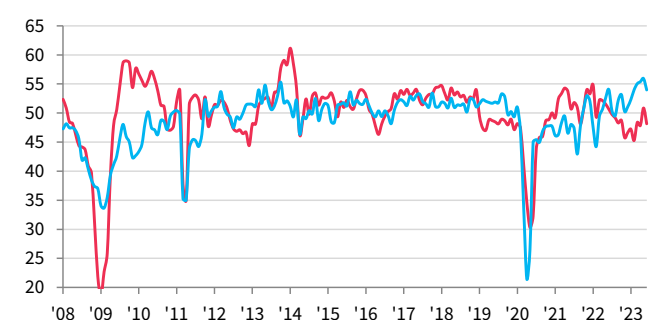
\* 複合指数は製造業とサービス業それぞれの指数を加重平均したものである。加重値は、GDP公式データに基づく製造業とサービス業の相対的規模を反映している。日本複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業活動指数の加重平均である。

複合生産高指数  
季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出所：auじぶん銀行、S&PグローバルPMI、内閣府（S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス）

製造業生産高指数  
サービス業事業活動指数  
季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出所：auじぶん銀行、S&PグローバルPMI

## コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、Usamah Bhattiによる最新調査結果についてのコメント

「日本のサービス業は6月も需要が好調であることを示した。最新のPMIデータは、事業活動と新規事業ともに、5月から緩やかになっているにもかかわらず、調査史上の最高値に迫る水準で増加したことを指摘した。新型コロナウイルスの制限措置緩和の影響が、国内外で事業活動や顧客の購買意欲増加に継続的に寄与していることから、調査回答企業らは今回も堅調な業況と需要の拡大を成長の要因に挙げた。

需要の増加により、調査史上2番目に強い勢いで受注残が上昇していることから、企業は今後短中期の見通しについては楽観的な見方を維持している。また、平均間接費増加率が15か月間の最低水準に低下したと、価格面で明るい話もあった。

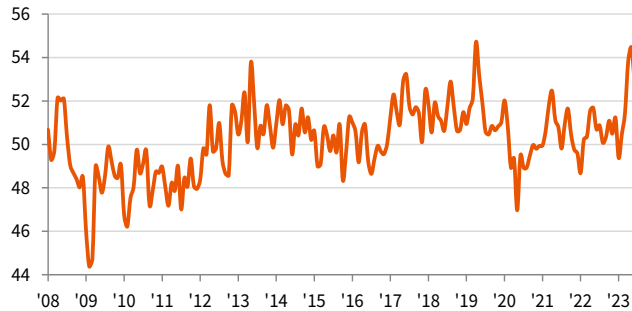
第2四半期末における民間企業全体の事業活動は、6か月連続で成長。増加は、上記のサービス業での事業活動上昇によるもので、対する製造業の生産高は再び縮小圏に陥った。

日本の民間企業は、新型コロナやインフレの影響が継続的に緩和する兆候をみせて

いることから、事業活動が今後1年間にわたって成長するだろうと強気の見通しを維持した。全体的な事業の見通しは、調査史上で4番目に高い指数を記録しており、日本の経済が2023年には1.2%成長するとみるS&Pグローバルの予想と一致している。」

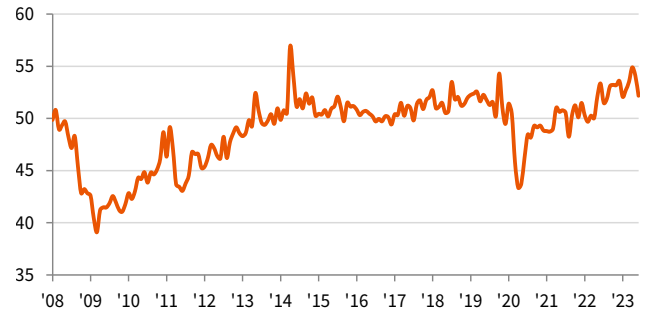
## サービス業雇用指数

季節調整済み、&gt;50 = 前月比で増加



## サービス単価指数

季節調整済み、&gt;50 = 前月比で上昇



## お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行  
[Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp](mailto:Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp)Usamah Bhatti  
エコノミスト  
S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス  
電話: +44 1344 328 370  
[usamah.bhatti@spglobal.com](mailto:usamah.bhatti@spglobal.com)SungHa Park  
コーポレートコミュニケーションズ  
S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス  
電話: +82 2 6001 3128  
[sungha.park@spglobal.com](mailto:sungha.park@spglobal.com)

## 調査方法

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバル・インクがサービス業約400社からの調査回答をもとにまとめています。対象セクターには消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれます。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数はサービス業事業活動指数です。これは、事業活動量の前月比での変化についての回答から算出する拡散指数(ディフュージョン・インデックス)です。サービス業事業活動指数は製造業の生産高指数に匹敵します。「サービス業PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業事業活動指数の加重平均です。加重値は、GDP公式データに従った製造業とサービス業の相対的規模を反映したもとなっており、複合生産高指数は「複合PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調整要因は必要に応じ修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2023年6月のデータ収集期間: 2023年6月12~27日。

## PMI(購買担当者指数)

購買担当者指数™(PMI®)調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、[ihsmarkit.com/products/pmi.html](https://ihsmarkit.com/products/pmi.html)をご覧ください。

## 免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱着、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedに使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱着(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

PMI®

by S&amp;P Global